市政トピックス

消防出初式―市民の安全・安心を守る決意新たに

1月6日、勾当台公園市民広場と市役所本庁舎前で、新春恒例の消防出初式が行われました。出初式は、市民の安全・安心を願うとともに、消防関係者の安全と奮起を誓い合うもので、明治時代から続く伝統行事です。3年ぶりの通常開催となった今回は、消防職員や消防団員、婦人防火クラブ員など、1064人が参加しました。

消防車両、消防職員等による観閲行進に続き、式典を開催。次に、消防音楽隊の演奏に合わせた、カラーガード隊の華麗なフラッグ演技や、市内7つの消防団による、市指定無形民俗文化財「仙台消防階子（はしご）乗り」が披露されました。高さ7・2メートルのはしごの上で次々に繰り広げられる勇壮な技と堂々たる姿に、観客から大きな歓声が上がりました。そのほか、特別機動救助隊等による救助訓練や一斉放水も行われ、防火・防災への決意を新たにした一日となりました。

▲消防団員が心を一つに技を披露する伝統の階子乗り

◎令和4年は、火災件数は減少・救急出場件数等は過去最多

消防局がまとめた令和4年火災・救急概況（速報値）によると、火災件数は前年より19件減の209件で、平成元年以降最も少ない件数でした。火災による死者は前年より5人増の7人となりました。一方、救急出場件数は8735件増の67737件、搬送人員は5万73人でした。救急出場件数は初めて6万件を超え、搬送人員とともに過去最多となりました。

▲市役所本庁舎でのロープを使った救助訓練

市政トピックス

いざというときに備えて―避難訓練コンサートを開催

日立システムズホール仙台で、12月13日、公演中の地震発生を想定し、避難訓練を組み込んだコンサートが開催されました。これは、参加者の防災意識を高めるとともに、災害時の職員の対応力を向上させることを目的に行われるものです。

当日は、180人が参加し、コンサート中に震度5強の地震が発生したとの想定で訓練を実施。演奏中に警報が鳴り響くと館内は停電し、参加者は職員の指示に従って、その場で頭を抱え身を守りました。速やかに屋外に避難し、職員が参加者全員の安全を確認して、訓練は終了しました。

その後、仙台市防災・減災アドバイザーが、外出先で地震に遭った場合の避難行動などについて、講演を行いました。続いて、消防音楽隊によるコンサートが再開され、迫力ある演奏を楽しみました。

参加者からは「演奏会によく行くので、実際に訓練を体験できて良かった。万が一の時のシミュレーションを頭に入れることができた」などの感想が聞かれ、地震発生時に冷静に身を守る行動を取る大切さを再確認する機会となりました。

▲訓練が始まり、職員が拡声器を使用して参加者に避難を呼び掛けました

市政トピックス

仙台市防災功労表彰を実施しました

本市の防災・減災に尽力され、顕著な功績のあった団体等を表彰する仙台市防災功労表彰を、1月17日に行いました。本年度受賞した2団体は次のとおりです（順不同）。

「仙台市太白地区婦人防火クラブ連絡協議会」「特定非営利活動法人FOR YOU（フォーユー）にこにこの家」

市政トピックス

はたちの集い―新しい門出を祝福

1月8日、「仙台市はたちの集い」が、カメイアリーナ仙台（仙台市体育館）で行われました。令和4年4月に民法改正により成年年齢が引き下げられましたが、引き続き二十歳を迎える方を対象に成人式から名称を変更し、開催されました。

式典は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、二部制で実施され、約6200人が参加しました。郡市長は「素晴らしい出会いに恵まれ、夢に向かって存分に力を発揮し、彩り豊かな人生を歩んでほしい」とメッセージを贈りました。また、二十歳を迎えた参加者を代表して、第1部では、荒泰（たい）樹（き）さんと川嶋莉奈さん、第2部では関根一真さんと常盤優月（ときわゆづき）さんが「これからも周囲の幸福を願い、感謝と思いやりの心を胸に、明るい未来を創りあげていくことを誓います」と力強く話しました。参加者たちは、晴れやかな表情を見せながら、新たな一歩を踏み出していました。

▲誓いの言葉を述べる関根一真さん、常盤優月さん

市政トピックス

15年にわたる星空投映の軌跡

天文台のプラネタリウム投映機「ケイロン」のリニューアルに伴い、10月27日から12月28日まで、企画展「ありがとうケイロン―ケイロンが映した15年の星空」が開催されました。ケイロンは、平成20年に天文台が現在地に移転したと同時に稼働を開始。15年間で、延べ200万人がケイロンによるプラネタリウム投映を鑑賞しました。

企画展では、これまでの投映番組を年表にして展示し、ケイロンの歩みを紹介。会場に設置したメッセージボードには「楽しませてくれてありがとう」などといった感謝を伝えるメッセージが寄せられました。最終日には、集まったメッセージの紹介とケイロンが映し出してきた星空を振り返る特別投映を開催。参加者からは、別れを惜しむように、大きな拍手が送られました。春には新しい投映機が登場します。

3・11震災文庫を読む 61

東日本大震災を語り継ぐため市民図書館に設けた「3・11震災文庫」。所蔵する約1万冊から、よりすぐりの本をご紹介します。

もしもの時の備えを

粋々（いきいき）まちなかプロジェクト代表　齊藤　衣代

「いざというとき使えるために緊急のものトリセツ図鑑1たてもの」

教育画劇・オフィス303／共編
教育画劇　刊

あの頃、確か千年に一度の未曽有の大地震と聞いたような、、。ところがその後も地震が頻発しており、今後、北海道から関東の沿岸に巨大地震と大津波が切迫するとされています。

街では高層ビルが林立し、職場、お店やマンションでのエレベーター普及率も高い。通園・通学のために子どもだけの利用も頻繁です。突然強い地震に遭い、エレベーターが停止し、閉じ込められる恐怖を想像すると、安心のためにも非常用備蓄品がセットになった椅子を設置するなど安全対策が必要と思われます。

いざというときの対応や消火器の使用方法、非常口への案内板などが分かりやすく説明されており、家族で必見の書です。

「ご当地電力はじめました！」

高橋真樹／著
岩波書店　刊

世界を震撼（しんかん）させた福島原発事故は不条理で、悔しさと虚しさを突き付けられました。突然故郷を追われ逃げ惑い、苦しみや悲しみを背負いながら容赦なく居場所を転々とされた方々が大勢いたことを私たちは忘れてはなりません。

そんな困難の中、負けずに立ち上がり仲間たちと自然エネルギーで発電事業を行う会津電力を設立した佐藤彌右衛門（やうえもん）さんを知りました。喜多方市内で江戸期から200年以上続く大和川（やまとがわ）酒造店九代目ご当主です。その気概とフロンティア精神に敬服し感銘を受けました。

本書には、原発事故を受け、人生をかけてエネルギー問題にチャレンジしたり、3・11以前から地道に取り組んでいる人々が紹介されています。

●紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます　問市民図書館☎261・1585